

ケニア国 JICA プロジェクト研修員の受入

1. はじめに

林木育種センターでは、(独)国際協力機構(JICA)を通じ、平成24年7月からケニア森林研究所(KEFRI)への技術協力「気候変動への適応のための乾燥地耐性育種プロジェクト」を進めています。プロジェクトでは、毎年各分野の専門家を派遣して現地で技術指導を行うとともに、研修員の受け入れを行い、乾燥に強く生産性の高いケニアの郷土樹種であるメリア(センダン科)などの優良品種の開発・普及に取組み、現地にメリア採種園2箇所(各10ha規模)を造成するなど大きな成果をあげています。

今年度は5月から6月にかけて4コース(プロジェクト管理、DNA分析、育種理論、普及)計7名の研修員を受け入れました。

2. 今年度の研修概要

(1) プロジェクト管理コース(6月1日~14日)

プロジェクト後半を迎え普及活動が重要になっていく中でKEFRI普及活動部門のトップであるチャガラKEFRI副所長を受け入れ、我が国の育種事業の概要、民間苗畑や木材加工企業の視察など幅広い研修を行いました。また、関西育種場による育種研究やジーンバンクの取組などの研修を行いました。



写真 KEFRI 副所長への検定林の説明

(2) DNA分析コース(5月18日~6月14日)

昨年度に引き続き2名の研修員を受け入れ、これまで習得してきた実験手順の再確認を行うとともに、得られたデータの解析手法について学習しました。また、林木遺伝資源の保存と評価、活用等についての取組を学習しました。



写真 DNA分析技術指導

(3) 育種理論コース(5月18日~6月14日)

昨年度同様2名の研修員を受け入れ、採種園の管理手法、プロジェクトが計画する優良候補木100本の選抜手順、造成予定の次代検定林の作業手順等の指導を行いました。研修後、現地では優良候補木の選抜が無事完了するなど研修成果が早々に現れました。

(4) 普及コース(6月1日~6月28日)

今年度初めて普及コース研修員を受け入れました。プロジェクト成果の普及活動に貢献できるよう造林地の視察、地域材利用の取組、木製家具を対象としたマーケティング手法の学習など川上から川下を意識した幅広い研修を行いました。

3. 今後の取組

プロジェクトは後半を迎え、研修成果の発現が求められます。来年度も現地の状況を踏まえ適切な研修となるよう取組んでいくことにしています。

(海外協力部 海外協力課 清水俊二)